

令和8年度

「運営に関する計画」



大阪市立宝栄小学校

現状と課題

本校では、「学びあう、心を見つめ合う、たくましい児童を育てる」を目標とし、一人一人の子どもにとっての安心・安全な居場所、活躍の場を作るとともに、子どもたちが生き生きと楽しんで考えや思いを伝えあうことができることを目指して研究・実践を進めている。

例年、不登校や学級に入れない児童で、これまでと違って友達関係に起因するものが複数あがっている。学級でのトラブル処理をどうするかが問われるものとする。不登校やいじめ事案に関して、今回の運営に関する計画の最終反省にて確認する。

昨年度は、ポジティブ行動支援（PBS）に取り組み、子どもたちの学校生活の質の向上につながる「望ましい行動」を可視化し、褒めたたえる機会を増やすことで、より良い学級、学校づくりについて考えることができた。引き続き、より良い集団を育成できるよう取り組みを実施していく。

授業の中で対話ができる場を作ることで、自分の意見を言ったり友だちの意見を聞いたりすることができるようになった。今年度も「伝え合う力」を育てるため、自分の思いや考えを、正しい言葉で豊かに表現できるよう研究を進めていく。また、基礎学力の定着のため、2学年において漢字検定の団体受験を行う。さらに、自主学習環境を整えることで、学習意欲の向上を図り本校児童の学習課題を克服する。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 68%以上にする。
- ② 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下の教職員の割合を 8 割以上にする。
- ③ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。

本校の課題解決に向けた取り組みの重点

(1) 安全・安心な教育の推進

だれもが安心できる学級集団づくり

- 日常的に取り組むこと（異学年交流、いいところみつけなど）
- トピック的に取り組むこと（イベント、いじめを考える日など）
- PBS（ポジティブ行動支援）に基づいた支援
- アサーショントレーニングに代表される言い方や方法論を重視した指導

(2) 未来を切り開く学力・体力の向上

自ら問いを発し、解決していこうとする学習活動の創造

- 家庭学習の定着、自主学習の推奨
- 外部講師の招聘
- ICT 機器の有効な活用
- 体育学習での多様な運動に取り組む

(3) 学びを支える教育環境の充実

教育 DX の推進 教員の働き方改革 生涯学習の支援

- 一人一台 PC の日常的な使い方を創造する
- 会議の精選と時間短縮（ペーパーレス化の追求）
- 読書への興味を高める環境整備

評価基準	A:目標を上回って達成した	:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標 〈安心・安全な教育の推進〉	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「いじめについて考える日」や道徳の学習を通して、いじめについて認識を深める取り組みをする。 ○ いじめが起これにくい学級集団づくりに取り組み、いじめアンケート等がいじめを把握した際は迅速に対応する。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。（昨年度 69.7%） 	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>自尊感情、自己肯定感</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級の取り組み、学校行事、異学年交流を通して自尊感情や自己肯定感を育む。 ○ PBS(ポジティブ行動支援)に基づき、望ましい行動を育てる集団を育成する。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。（昨年度 87.8%） 	

年度目標の達成状況や取組の結果と分析
次年度への改善点

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標 〈未来を切り拓く学力・体力の向上〉	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>主体的、対話的で深い学びをめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究授業、研修会を積極的に実施し、個別最適な学びの在り方、協働学習により学びを深める指導に取り組む。 ○ 自主学習を奨励し、週に1回、自主学習に取り組む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。(昨年度81.9%) 	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>基礎体力の向上につなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動用具を精選し、児童が夢中で遊ぶことができる環境づくりを行い、運動が楽しいと思える児童を育成する。 ○ 様々な種目・運動を紹介し意欲的に取り組める体育学習を工夫する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。(昨年度90.3%) 	

年度目標の達成状況や取組の結果と分析
次年度への改善点

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標 〈学びを支える教育環境の充実〉	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が学習端末を使用しやすい環境を整備する。 ○ 各教科の学習を通して情報活用能力、情報モラル等の育成を図る。 ○ Canva や生成 AI などを活用し、ワークシートや資料等の作成を行う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。 (昨年度61.5%) 	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 会議の精選と時間短縮、ペーパーレス化の追求 ○ 勤務時間のフレキシブル化を図る <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校園における働き方改革アクションプラン」に基づき、教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。(昨年度19時間57分：2月までの累計) 	
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>読書力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読書時間を確保し、読書習慣を身につけさせる。 ○ 読書への興味を高める環境整備を行う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を68%以上にする。(昨年度66.4%) 	
年度目標の達成状況や取組の結果と分析	
次年度への改善点	